

地域連携 だより

地域連携機関の皆さま方には当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、患者さまにおかれましても常日頃ご支援をいただき、誠にありがとうございます。地域連携だよりのコーナーでは当院の情報をお知らせいたしますので、今後とも宜しくお願いいたします。

各診療科のご紹介



神経内科

おぐに えいいち
部長 小國 英一

地域連携に御協力いただく関連施設の諸先生並びに職員の方々には、御迷惑をお掛けすることが多く、この場を借りて先ずお詫び申し上げます。と言いますのも、早急な対応を宜しくお願いしますとの御依頼に十分対応できないでいる現状を熟知しているからです。

当神経内科は一人診療科として活動しており、総合診療科にお手伝い頂いて入院診療を実行しております。このため、急性発症の四肢の麻痺や意識障害といった入院を要する患者さんは、救急外来を通し総合診療科医師が担当医となり、内部コンサルテーションの形で神経所見評価並びに画像・機能検査の実施並びに評価を行っております。一方、諸先生方が当科に最も期待する、“現状の対応で良いものか判断に窮する”或いは“神経内科専門医でなければ手に負えない神経変性疾患であるか否か評価して欲しい”といった外来通院での新患患者診察には、多くの制限が生じております。

この問題を解決する一助として、紹介元の諸先生方に重ねてのお願いがあります。

1. 紹介状作成に際し、受診の目的を患者さんと共有し、明確にしてください。

未だに、当科受診理由を患者さんから聞くと、“とにかく中央病院へ行くよう言われました”との返事があり、実は診療希望が無い旨を長時間掛けた病歴聴取の後で判明し、病歴の詳細を聞かれる事をむしろ迷惑に感じている方もいらっしゃいました。

2. 患者さんの主訴を客観的な所見で御確認頂いた後に御紹介頂ければ幸いです。

“歩けなく為りました”との紹介状を携えて独歩で受診して来られる患者さんの対応は当科でも矢張り困難します。確認させて頂くと、また聞きしたような同様の家族から、“私は確かにそう聞きました”等半ば当方が非難される事も度々です。

3. 暫定診断で内服治療を開始した後の御紹介は御遠慮ください。

特にパーキンソン病を疑い、DOPA製剤を内服して紹介された場合、一旦内服を中止した後に所見を評価する必要があります。いきなり中止することのできないこれらの内服薬の整理のためにさらなる時間を要してしまいます。

この他、手続に御不明な点は予め医療連携室に問い合わせ頂き、依頼内容の難解な紹介状を持たせた直接来院を避けて頂き、潤沢な連携診療達成に御協力頂ければ幸いです。